

がんばる! にちなんびと

多里はんざけを守る会



プロフィール

- 平成23年4月に設立。
平成21年10月に行われた、「第6回日本オオサンショウウオの会」が日南町で開催されたのをきっかけに会を設立。
- 平成30年3月に設立された「にちなんエコツーリズム推進協議会」の副会長に面田会長が就任。

【主な活動】

河川清掃、オオサンショウウオの観察学習会、保護のための人口巣穴の設置とメンテナンス、ガイドブック・はんざけグッズの製作・販売、年間の活動報告会(はんざけよもやま話)の開催など

今回は、^{おもだ よういち}面田洋一会長にお話を伺いました。

守る会が設立された経緯は

岡田純先生(現:NPO 法人日本ハンザキ研究所理事長)との出会いが始まりでした。子どもの頃から川に当たり前にはんざけと呼んでいる「オオサンショウウオ」が、希少な生物で「すぐそこにいることが奇跡」だと知ったことでした。平成21年10月に「第6回日本オオサンショウウオの会」という全国大会が日南町で開催され、せっかく盛り上がった火をこのまま消すのはもったいないと、会を設立することになりました。

主な活動は

主な活動としては、毎年夏に河川清掃や観察学習会を行っています。また、人口巣穴を設置しその維持管理も行っています。冬には報告会でもある「はんざけよもやま話」を開催しています。そのほかには、多里地域振興センターの展示室の整備、ハンドブックやTシャツや手ぬぐいなどはんざけグッズの製作販売も行っています。また、にちなん食のバザールでは、多里まちづくり推進協議会と一緒に少しでも盛り上げようと、はんざけパーカーの販売も行っています。

なぜ人口巣穴が必要

今は多く生息していると思われるオオサンショウウオですが、守らなければやがていなくなってしまう希少な生物です。近年の気候変動や山の樹種変更などで、土砂が一気に流入するなど巣穴が流されてしまうことなどが起こっています。そこで人口巣穴を設置して、オオサンショウウオの繁殖を助けようとしています。平成28年10月に、県内で初めて人口巣穴での産卵・孵化が確認されましたが、まだまだ改良の余地があるのが現状です。

オオサンショウウオは 多里の人口より多い?

日野川に生息しているオオサンショウウオは、日野川固有の固体で、他の地域では中国のオオサンショウウオが入ってしまい雑種になってしまっている地域もありま

す。そういう意味でも、日南町のオオサンショウウオは貴重といえます。日南町では、オオサンショウウオ研究のため、岡田先生がマイクロチップを約700匹の固体に埋め込んでこられました。それでも、観察会で見つけたオオサンショウウオの中には1~2匹はチップの入っていないオオサンショウウオが見つかります。もしかしたら、多里の人口よりオオサンショウウオの数のほうが多いかもしれません。

日本と言えばオオサンショウウオ

実は、中国の生き物といえばパンダのように、日本の生き物といえばオオサンショウウオという認識が海外では広まっています。オオサンショウウオが生息しているのは、日本以外では中国とアメリカです。ヨーロッパには生息しておらず化石が発見されるのみです。なので、欧米から研究者が日南町にこられていますし、観光で日南町のオオサンショウウオを見にこられる外国人の方もおられます。保護の観点からも、一度に多くの方を受け入れるのは難しいですが、多里にゲストハウスのようなものを作り、地元にも貢献できるようにしていきたいと思っています。

最後に一言

これまでは、「はんざけの固体を守るための活動」をしてきましたが、はんざけだけを守るのではなく、「はんざけが生息できる環境を守る活動」に変化してきたと思っています。今まで活動できたのは、無理をせず負担にならないように活動してきたからです。今後も、活動を継続し岡田先生の研究のサポートや活動の周知などを行っていきたくと思っています。また、活動を引き継いでくれる次世代の発掘も必要と思っています。会員には、はんざけに興味があり、はんざけを愛する気持ちのある方であれば誰でもなれます。2月16日に開催する「はんざけよもやま話」に是非ご参加いただき、はんざけにまずは興味を持っていただければと思います。

はんざけよもやま話

日時: 2月16日(日)10時~(予定)

会場: 多里地域振興センター

※詳しくは多里まちづくり推進協議会Facebookをご覧ください。

